

「中央総研・事業承継1ヵ月の出来事」

平成29年から3年かけて準備し、令和2年9月1日に、法的にも事務的にも、実態としても、新社長と新代表社員に経営権を引き継ぎました。35年余、毎日当たり前のようについていた鎧と肩の荷が下ろせたことによる安堵と、次世代が育ってくれた喜びからでしょうか、緊張の糸が切れたような脱力感を感じました。

ところが、引継いで1週間目に、ある担当者が普段はしないミスをして大事なお客様から、クレームを頂戴しました。その対応に、新代表社員が伺ったのですが、逆に、お客様から厳しいお叱りを受けました。担当者のミスよりも、「新代表社員の君が、本当に事務所を代表する人間として覚悟があるのか、命懸けで取り組んでいるのか」という根本的・本質的な問いかけに、明確に即答できなかったことが原因でした。

新代表社員には、どんな時も“原因は我に在り”・“問題の第一原因は、自分にある”“お客様は常に正しい”と、会長である私が普段、口が酸っぱくなるほど言っていることが、今回の一件で、肚の底で理解できたことと思います。

これ以上ないタイミングで、これ以上ない深い内容で叱って下さったS社長には、本当に感謝です。有難い実地での、熱いご指導を頂戴しました。中央総研の未来を、新代表社員の将来のことを思って、心を鬼にして叱って下さったのです。

今度は、その翌週、県下最大規模の建設業の社長から連絡を頂き、税務の顧問を依頼されました。「事実は小説よりも奇なり」と申しますが、本当のことです。

「禍福は、あざなえる縄の如し」と申します。やはり、天は見てくれているのだと感激しました。

良いこと・悪いこと、大きなこと・小さなこと、どんな場合も、常に誠心誠意、真っ正直に、素直に、全力で対応させていただくこと。

絶対に、言い訳をしたり、逃げてはいけないこと。まして、嘘をついたり、誤魔化してはならないこと。この何とも、当たり前のことを学ばせて頂きました。

百言を費やしても会得出来ないことを、最初の1か月で体験しました。

新社長・新代表社員は、大変な役を背負ったと、思っていることでしょう。

組織のトップは、決して、恰好のいい面だけではありません。否、胃の痛くなるような、間尺に合わない事の方が、はるかに多いのです。しかし、長い目でみれば、その体験に一つの無駄も無いのです。それあるによって、人間として、リーダーとして成長することが出来るのです。

新会長としてどうあるべきか、私自身が鍛えられている「事業承継」1か月目でした。本当に有難いことです。



今月のポイント

人を相手にせず

天を相手にせよ。